

第 103 回奈良県河川整備委員会 議事概要（案）

日時：令和 5 年 3 月 14 日（火）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：奈良県経済倶楽部 5F 大会議室

出席者：

【委員長】川池委員

【委 員】伊東委員、岡崎委員、久保田委員、倉橋委員、河本委員、小林委員、庄田委員、館野委員、
福井委員、堀野委員 （50 音順）

【事務局】奈良県県土マネジメント部 河川整備課

議事：

- (1) 第 102 回奈良県河川整備委員会の議事概要
- (2) 委員のご意見への回答について
- (3) 進捗点検とりまとめ【大和川水系（生駒いかるが圏域）】について
（環境モニタリング調査結果を含む）

その他：

- (1) 今後の予定について

(1) 第 102 回奈良県河川整備委員会の議事概要及びご意見への回答について

議事概要の確認を行い、確定となった。

(2) 委員のご意見への回答について

○久保田委員 事務局（県河川整備課）が発行している大和川ジャーナルという県民に対する河川についての P R 冊子だが、非常によくできていて、色々な情報が県民に渡されていると思う。
こういう P R 冊子についても、委員の皆様のスキルを生かしたものにしていただけたらと思う。

→より県民の方々に分かりやすく情報発信できるように、掲載内容を練っていききたい。専門分野に関して委員の皆様にご意見を賜ることもあるかと思うが、その際は協力をお願いする。

○河本委員 昨今、学校では防災教育にかなりの時間が割かれているので、大和川ジャーナルを防災教育の担当者に知ってもらい、学校で使用すると良いと思う。

→どこまで防災教育と連携できるか今後の課題として考えていきたい。なお、県では「なら県政出前トーク」ということを行っており、学校だけでなく地域の方々から要望があれば河川に関するテーマとして治水や水害についての講義を行っている。情報の発信の仕方についても、紙媒体と SNS をつなげ、双方向で情報を発信できるように模索していきたい。

○福井委員 大和川ジャーナルは読んで終わりじゃなくて、実際大和川に行って体験もできたらいい

と思う。子供といける魚がいる場所や、川に関する体験教室のような情報も掲載してはどうか。

→他部署ではあるが、例えば「水辺の楽校」という、小学校に出向いて、生徒たちと川に入り魚などを捕まえて、わかりやすく河川生物について講義をする取り組みを行ってきた。現在はコロナ禍で一部でしかできていないが、今後もそのような取り組みを続けていければと思う。

○川池委員長 大和川の奈良県側の流域は流域治水関連法改正にともない、特定都市河川の指定を受けた全国一番目の河川である。今後も、流域全体での取り組みの進捗状況や情報をこの委員会で共有してほしい。

→今後も新たな情報があれば共有する。

(3) 進捗点検とりまとめ【大和川水系（生駒いかるが圏域）】について

○久保田委員 三代川に関して、整備済みの箇所（※整備計画策定前に整備した箇所）を対照区間とするというのはどうかと思う。本来は工事を実施していない自然度の高い箇所を対照区間とするのが良いと思う。

→今回設定した対象区間の、更に上流は道路側溝みたいな川になるため、現計画で整備を行わない箇所が一番川幅が広い箇所に設定した。今後の環境調査の設定のときには委員のご意見を尊重していきたい。

○岡崎委員 環境調査データは貴重であるため、部署間で共同利用するようなことを考え、モニタリングだけではなくて、自然保全にも活用してほしい。

→部署間でのデータ共有について検討する。

○館野委員 現地調査結果概要に記載している内容と、進捗点検区間の現状と対照区間との比較に示してある棒グラフでは生物の種類に違いがあるがどういうことか。

→記載する基準や調査方法が異なっている。今後、誤解が生じないように記載内容を統一する。

○倉橋委員 調査実施状況の表について、調査時期(季節)の記載方法がシンプルではなく誤解が生じると思う。

→記載方法の変更や注釈をつける等、次回から時期の示し方を変え、わかりやすくする。

○堀野委員 今回調査した整備区間内についてだが、整備区間内と言っても整備はまだしていないところか。

→基本的に、まだ整備していないところである。今後5年間で整備予定のところを調査区間としている。

○堀野委員 整備区間だが現在は未整備だから、ビフォー・アフターで調査できる。対照区間も、整備区間の割と近いところなので、工事の影響が出るかもしれないという調査となり、非常に貴重な調査データになると思う。ただ、条件をより明確に区分して調査するのが良いと思う。調

査頻度はどの程度となるか。

→調査頻度は進捗点検の5年のサイクル毎である。直近5年で整備した箇所と対照区間を調査するのが基本である。

○堀野委員 整備計画区間と対照区間という2つに分ける方法はスケールが違いすぎる。表記方法を工夫してはどうか。

→分かりやすい表現にする。

○久保田委員 工事が終わった後にどういう影響が出るか、あるいは、それからまた5年後、10年後にどう影響が出るか、というような形で比較して、初めて生き物にどういう影響が出るかと結論づけることができると思う。

→工事後も調査していく。なお、今回の竜田川小瀬工区での調査では、今後5年間で整備予定の箇所に加え、ここ5年間で整備した箇所も参考として調査しており、工事前後の変化を考察している。